

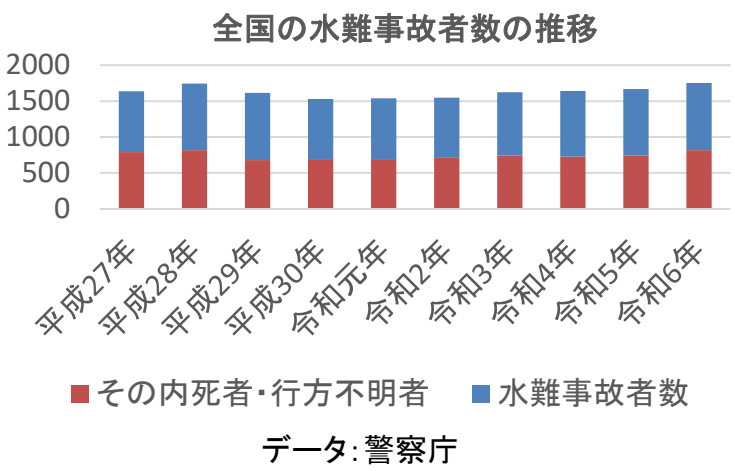
Created by U.W.S.U.A

認定NPO法人アンダーウオーター
スキルアップアカデミー

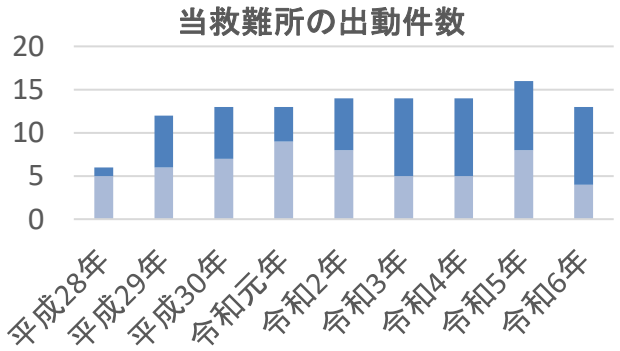
活動紹介

水難事故の現状

全国の水難事故者数はこの10年間で年間1529人～1753人
その内 死者・行方不明者679人～816人と、事故者数の約45%が死者行方不明者
静岡県内の事故者数は昨年46人、その内死者・行方不明者 18人と
事故者数の39%が死者・行方不明者



データ：警察庁



当団体の水難事故発生時の出動件数

認定NPO法人アンダーウオータースキルアップアカデミーはH.28年4月より（公社）日本水難救済会の静岡広域DRS救難所として活動を開始。
これまで115回出動して、その内57回は救助活動をしている。

当団体の水難事故発生時の活動







伊豆半島（熱海市と沼津市を除く）において水難事故発生の119番通報が指令センターに入ると、昼夜を問わず当救難所に連絡がくるので現場付近にいる救助員が出動し、海上保安部、消防、警察、水難救済会、漁協 等と協力して水難救助活動をしている。119番通報以外には海上保安庁 等からの電話や、海で仕事をしている救助員が多いので事故者を発見して救助活動をする場合もある。
水難事故は、いかに早く適切な救助ができるかが生存のカギとなってくるので、当団体のような民間の力が必要となる。

U.W.S.U.Aの主な活動

水難救助活動

・救助出動
・救助機関との合同訓練
・救助員向け潜水捜索訓練
・水難事故対策連絡会
・救助機関の水難救助員向け潜水技術指導

災害復旧活動

・東日本大震災後の漁業復興支援
・東日本大震災後のその他の支援
・官民合同津波避難・防災訓練
・地方自治体 等との災害時の応援協定締結

レジャーダイビングの安全啓発活動

・ドクターヘリ・救急隊・ダイビング事業者の合同勉強会
・酸素ファーストエイド コース開催

水難救助活動

・救助出動

（公社）日本水難救済会 静岡地区水難救済会の救難所となったH.28年以降の当団体が水難事故発生時に出動した件数

	H.28年	H.29年	H.30年	R.元年	R.2年	R.3年	R.4年	R.5年	R.6年	合計
出動件数	6	12	13	13	14	14	14	16	13	115
内 救助活動件数	5	6	7	9	8	5	5	8	4	57

R.3年7月熱海市伊豆山の土石流災害発生の翌日より、海上保安庁からの依頼で、海上保安庁潜水士と協力して、下流の伊豆山港内を中心に行方不明者の海中捜索を実施。2日間で救助船1隻延べ18人の救助員が参加。



土砂が堆積し、水中視界ゼロの海中で行方不明者を捜索





当法人所属の救助船と救助員

・救助機関との合同訓練

日頃から伊豆半島各地で消防・海上保安庁・警察・地方自治体・漁協・水難救済会救難所の関係機関と合同訓練を行い、顔の見える関係を構築している。



行方不明者を消防と共に環状捜索



救助船まで事故者（ダミー人形）を曳行



救助船に事故者を揚収

・救助員向け潜水捜索訓練

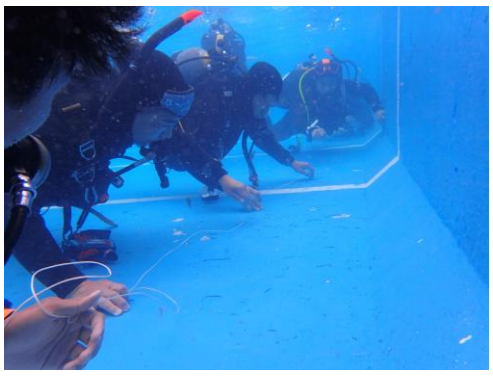
海上保安庁の潜水士が講師を務め、当法人の救助員向けの潜水捜索訓練をプール・海で毎年開催。救助員はレジャーダイビングのダイブマスター以上の資格と潜水士の資格を所持していて、この潜水捜索訓練の修了者。



海保の講師による説明



障害突破訓練



視界不良平行捜索訓練

・水難事故対策連絡会

毎年、消防・海上保安庁・警察・地方自治体・漁協・水難救済会救難所の関係機関と共に、水難事故の発生件数・事故概要報告、救助活動の問題点等の意見交換を行っている。





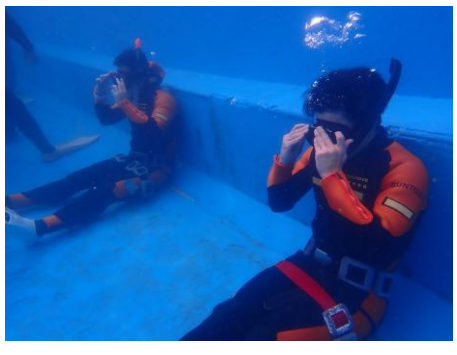
・救助機関の水難救助員向け潜水技術指導

H.28年から（一社）海中技術研究開発センターによって開始された救難潜水技術研修を、R.4年より正式に引き継ぎ、継続開催している。

本研修は、水難救助活動の経験が豊富で、潜水指導のエキスパートである救助員が講師を務め、実践的かつ応用可能な知識とスキルを提供することを目指している。



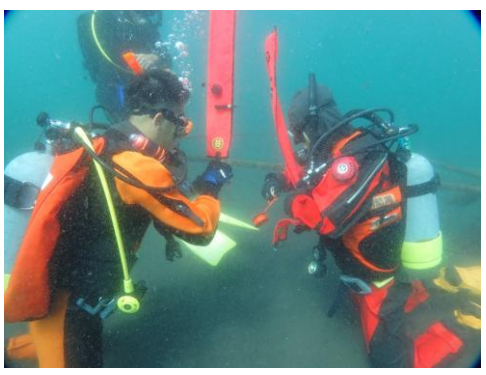
SKIN 潜泳



SKIN マスククリア



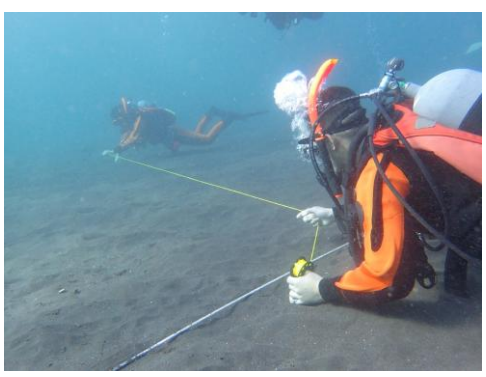
SCUBA 中性浮力



フロート打上げ



索信号・リール取り扱い



交互躍進

災害復旧活動

・東日本大震災後の漁業復興支援

H.23年3月の東日本大震災の2ヵ月後から、現地漁協の依頼で漁船の引上げ、養殖いかだの移設、水中瓦礫捜索と引上げ作業を継続し、H.30年までに15回現地入りして合計潜水本数は680以上。

【発災2カ月後】



潜水直前の準備



沈没した漁船のダメージ調査
（透視度1～2メートル、水温8℃）



絡んでいるロープ等を切断



重油が漏れ始めた漁船の引上げ





海中でアンカーロープに絡んだ瓦礫を切断して養殖いかだを分離

【発災1年後 ～ 】



1回20分の潜水で引上げた瓦礫



小型船を引上げ



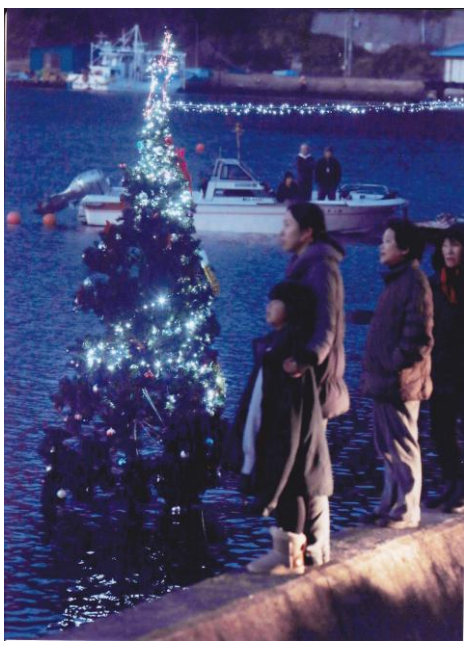
新しいアンカーロープに交換

・東日本大震災後のその他の支援

漁業復興支援以外にも被災者の復興の励みになるようにダイバーとしてできる支援を継続して行ってきた。



被災地から伊豆高原に避難していた子供たちを夏休みに伊豆海洋公園ダイビングセンターのプールに招いて、シュノーケリングなどの水遊びで思い出作り。



カキ小屋前の海上にクリスマスツリーを設置。夜間は電飾し、クリスマスムードを楽しんでもらった。毎年港を変更しながら「海上のメリークリスマス」イベントは継続中。

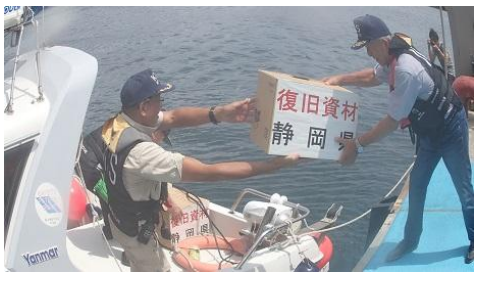


伊豆のダイビングエリアにおいて被災地からの海産物を提供し被災地の漁業関係者を支援。

・官民合同津波避難・防災訓練

伊豆半島各地で開催される官民合同津波避難訓練・防災訓練にも参加し災害の発生に備えている。

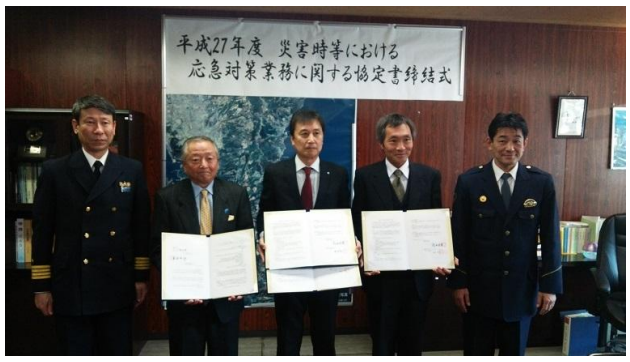






・地方自治体 等との災害時の応援協定締結

協定締結だけでなく、社会福祉協議会への団体登録と会員全員のボランティア活動保険への加入を毎年行い、災害発生時に備えている。





レジャーダイビングの安全啓発活動

・ドクターヘリ・救急隊・ダイビング事業者の合同勉強会

潜水事故発生時の連携強化のためにH.23年より合同勉強会を静岡県東部ドクターヘリチームが主催。企画・運営をサポートしダイビング事業者の取りまとめを行っている。







・酸素ファーストエイド コース開催

CPR・AEDの使用だけでなく、緊急時の酸素供給が適切にできるようトレーニングしている。





認定NPO法人アンダーウオータースキルアップアカデミー

公益社団法人 日本水難救済会
静岡地区水難救済会　静岡広域DRS救難所

【当団体ができること】
・発災時の水際の救助
・行方不明者の水中捜索
・水難救助隊の潜水訓練の受託
・水難救助隊の訓練・研修へ講師派遣
・官民合同訓練（防災・水難救助）へプロダイバーを派遣
・被災後の漁業等の復興支援
・災害時の応援協定の締結
・その他、潜水に関わる活動

【沿革】
・H.21年7月　静岡県伊東市にNPO法人設立
・H.26年10月　静岡県知事による第1号の認定NPO法人として認定される
・H.28年4月　静岡県内の水難救済会救難所としては初のダイバーによる救難所「静岡広域DRS救難所」として承認される（DRS：　Diving Rescue Station）
・R.元年10月 ＆ R.5年10月　認定NPO法人の有効期間を更新

【当団体のメンバー】
潜水士資格を持つダイビング指導者で水難救助、水中捜索、被災地の漁業復興支援活動等の経験豊富なメンバーが中心で構成されており、現在は自衛隊、海上保安庁、警察、消防の関係者も含まれる。会員数はR.7年6月現在80人。

【お問い合わせは事務局まで】

当団体のホームページ

〒413-0231　静岡県伊東市富戸842-229
（Keep Smiling内）
TEL ＆ FAX　0557-51-6888
e-mail　info@npo-uwsua.org
URL　https://npo-uwsua.org/

2025-07